



Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4 ×	5	6	7	8	9	10 ×
11 ×	12	13	14	15	16	17
18 ×	19	20	21	22	23	24 ×
25 ×	26	27	28 ×	29 ×	30 ×	31 ×

施設見学 9:00~16:30
土曜日は天体観望会実施日のみ 14:00~17:00
 天体観望会 18:00~20:00
(定員あり / 要予約)
 休館日

月の形 (満月・新月・半月および観望会で月が見えるとき)
 WEB配信予定日 (決定次第お知らせします)
 事務室閉室日 (問い合わせ等対応不可)

施設見学

1階常設展示フロアでは「望遠鏡 × 宇宙探査」、また、3階では荒木望遠鏡 (国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡) の見学が可能です。

天体観望会

荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。また、宇宙の3D映像上映会を開催します。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため

当面の間、新型コロナウイルス感染予防対策を実施したうえで、施設見学・天体観望会等のイベントを再開していきます。ご来館いただく皆様には、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

観望会でよく聞かれる質問にお答えします★

よくある質問

? 冬の夜空は華やか?

冬の星空には、他の季節よりも明るく見える星が多いので、星座の形もわかりやすいものが多いです。寒いですが、星が1年で最もきらびやかに見える季節ですので、ぜひ冬の星空を見上げてみましょう。

? 流れ星を望遠鏡で見たい!

荒木望遠鏡を使って、流れ星を見ることができればどんなにきれいだろう…☆とはいえ、とても難しいことです。流れ星が光るのは1秒以下から長くて5秒程度と短く、いつ、どこに流れるかも誰にもわかりません。流れ星に気づいてから望遠鏡を向けるのでは遅いのです。また、望遠鏡の視野はとても狭いため、偶然流れ星が入ってくるのを待つのも大変です。流れ星は、高い建物や木などが無い空の開けたところで、空全体を見ながらゆっくり待つのがおすすめです。12月13、14、15日ごろはふたご座流星群のピークで、毎年たくさんの流れ星が見えます。今年は下弦前の月明かりが邪魔をしますが、月が直接目に入らないように工夫して、暖かい服装で流れ星を待ってみてはいかがでしょうか?

知ってる? 神サポ

こうやてんもんたい
神山天文台サポートチーム

神山天文台の天体観望会で活躍している、小型望遠鏡を操作したり、宇宙の3D映像を解説している学生スタッフたち。彼らはナニモノ?!と気になる方もいらっしゃるのではないのでしょうか? 彼らは神山天文台を学生自身の手で盛り上げていこう!と様々な活動をするために、文系理系を問わず集まった学生有志のチームです。

土曜日の天体観望会だけでなく、サタデージャンボリーなどの大学内イベントでも一般向けの天文イベントを企画・実施しています。天文学に触れられる様々なイベントを通じて、神山天文台をより広く、より多くの人に知ってもらうため、天文学の普及のため日々活動をしています。今後の活躍もご期待!



ベツレヘムの星

クリスマスツリーのてっぺんにある星はベツレヘムの星を表して知ってた?



ベツレヘムの星とは?

イエス・キリストの誕生時、東方の三博士が生まれたばかりのキリストに会いに行く際に目印にしたとされている星のことなんだけど、

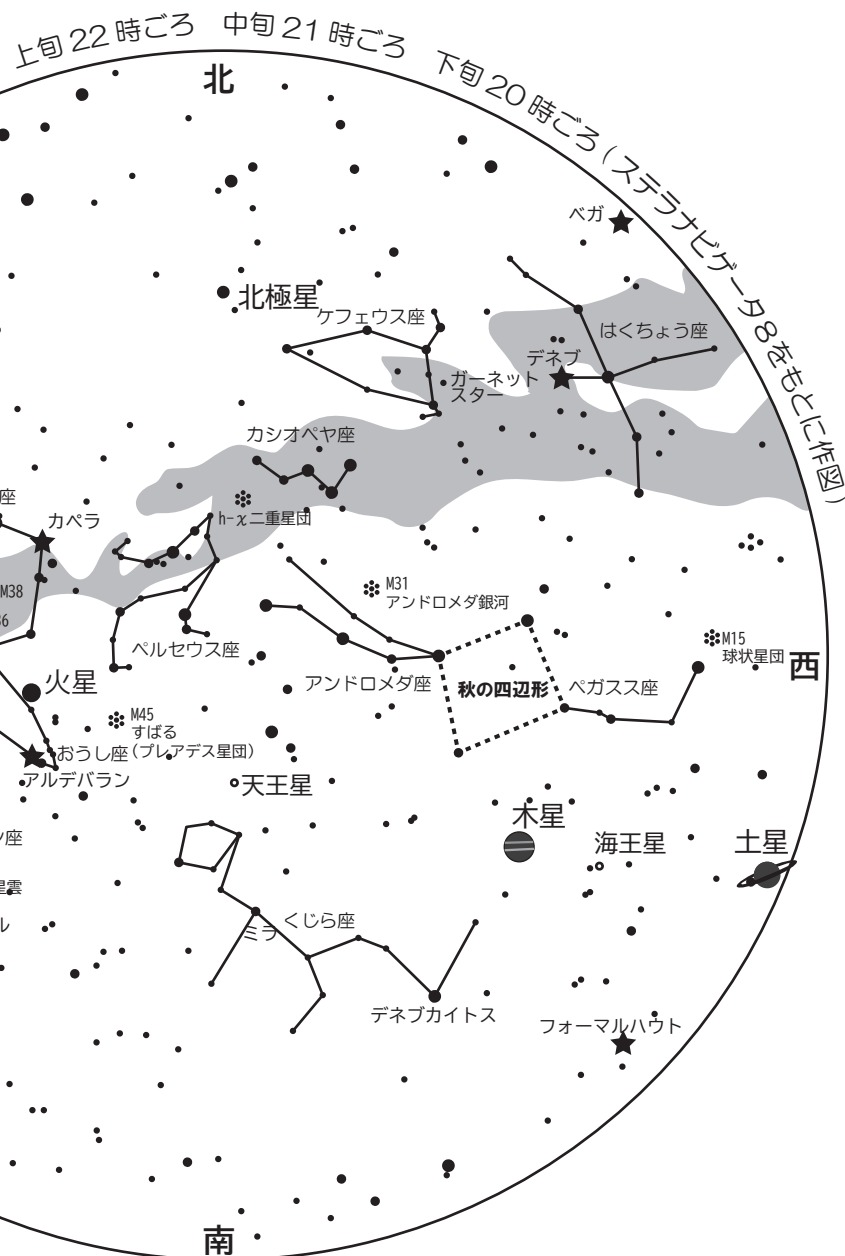


その星の正体には色んな説があって、未だ解明されていないんだ!

クリスマスの夜はイルミネーションもいいけど星をながめてみるのもいいかもね!



2022年 12月の星空



- ★ 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- ※ 星雲 星団 銀河

12月10-31日頃 全惑星が同じ空に

太陽系の7惑星（水星、金星、火星、木星、土星、天王星、海王星）が日没直後の夕空に見ることが出来ます。地球よりも太陽の近くを公転する水星、金星は日没後の西の空か、日の出前の東の空で見ることが出来ますが、12月はどちらもかなり低空にあります。水星が東方最大離角となる12月22日前後が見つけやすいでしょう。また、天王星、海王星は望遠鏡が必要です。日没直後はまだ空が明るいので、暗くなるまで待つか、自動導入付きの望遠鏡が便利です。12月24日～31日には、月も加わり、華やかな年末の空になりそうですね。

2022年12月 見ごろの天体

★**海王星（かいおうせい）と天王星（てんのうせい）：Neptune, Uranus**
海王星と天王星は、地球と太陽の間の距離の約30倍（約45億km）と約20倍（約30億km）も太陽から離れて回る惑星です。肉眼で見ることが出来ませんが、大気に含まれるメタンが赤い光を吸収するため、望遠鏡でのぞくと海王星は青色っぽく、天王星は青緑っぽく見えます。天王星は自転軸が90度倒れた「横倒し」の惑星です。

★**火星（かせい）：Mars**
太陽系の惑星で地球の1つ外側を公転する火星は、地球の1/2程度の小さな惑星です。2年2か月ごとの接近のタイミング（2022年は12月1日最接近）で観察の好機を迎えます。望遠鏡を使うと、ドライアイスの氷である「極冠（きょっかん）」や大チルシスなどの模様も見ることが出来ますが、見え方は火星の季節や天気（ダストストームなどでぼやけてしまう可能性もあります）にも大きく影響されます。

★**二重星（にじゅうせい）：Double star**
二重星は、肉眼では1つの星ですが、望遠鏡で見ると2つに見える星です。アンドロメダ座のガンマ星（アルマク）は色の対比が美しい二重星です。2つの星の色の違いは、星の表面温度の違いを表しており、青い方が温度が高い星です。二重星は見かけ上、偶然近づいて見えるものと、重力により、お互いの周囲を回りあう連星とに分けられます。太陽程度の質量をもつ星では、連星はごくありふれた存在であり、北極星やふたご座のカストル（6連星）などがあげられます。

★**散開星団（さんかいせいだん）：Open cluster**
ペルセウス座にある2つの散開星団 h-x（エイチ・カイ）やおうし座のすばる（プレアデス星団・M45）、ぎょしゃ座のM36、M37、M38が見ごろです。h-xは、それぞれの星団には数十個から数百個以上もの星が密集しています。荒木望遠鏡では狭い範囲を拡大するため、2つの散開星団のうちどちらか1つを見ることになります。少しずつ集まり方の異なるぎょしゃ座の3つの星団も比べてみましょう。恒星は、ガスの濃いところで集団で生まれ、h-xやすばるのような、若い星たちが集まった散開星団となります。やがて、散開星団の星たちは、時間が経つと少しずつ離れていくと考えられています。